

あ　と　が　き

日本透析医会雑誌13巻2号をお届けします。

- 1) 昨年11月より広報委員を8名より10名に増強しました。充実した価値ある情報を会員に提供するためです。
- 2) 今号より「奥付け」を設けることになり、それに伴って表紙、目次も模様替えしました。各広報委員の分担体制を明確にして行くことになります。
- 3) 優れた論文の他誌からの転載を可とすることになりました。
- 4) 今まで投稿いただいた方々に失礼があったと思いますが、近々、投稿規定を決定し明文化します。

今回も質の高い玉稿をいただき感謝しています。

- 1) 医療制度、保険制度の改革により、安くて質の高い医療の提供をめざすことは時代の趨勢でしょう。
- 2) 透析導入時調査は医会の事業のはずだが、未だ3県のみとはさびしい限りです。
- 3) 透析患者の福祉援助の実態、分かりやすく、今後の参考になります。
- 4) 大阪府下の全透析患者の7.3%がビタミンD₃パルス療法を受けている。抑制された場合の治療中止の基準、治療再開率はどうでしょうか。
- 5) ネットワークの腎移植の選択基準順位と生着率が必ずしも一致しないとのこと。全国的にはどうなのでしょう。
- 6) 岡山県透析医会が設立された。大変喜ばしいことです。

(広報委員長 奥田健二)